

古葉竹識監督着用 広島ユニホーム

広島東洋カープを3度の日本一に導いた名監督で、1999年野球殿堂入りの古葉竹識氏が2021年11月12日に逝去されました。

古葉氏は広島(58～69年)、南海(70～71年)で内野手として活躍し、64、68年には盗塁王を獲得。75年途中から広島監督に就任し、同年球団初のリーグ制覇を達成しました。79年には初の日本一を達成し、翌80年も連覇、84年にも日本一となりました。

古葉監督が率いたカープ黄金期の中心選手のうち、衣笠祥雄選手(96年殿堂入り)、山本浩二選手(08年)、北別府学投手、津田恒実投手(ともに12年)、大野豊投手、外木場義郎投手(ともに13年)が野球殿堂入りしています。

大野氏、外木場氏の殿堂入り通知式にゲストとして出席した古葉氏はスピーチで、「選手たちに恵まれた」ことを繰り返し口にし、感激の面持ちで「私の監督時代の選手たちが6人、殿堂入り

させてもらいました」と述べられました。

当館では計報が公表された11月17日に、古葉監督のレリーフに献花を行

い、ユニホームの展示を開始しました。

公益財団法人 野球殿堂博物館
学芸員 関口貴広



古葉竹識氏
殿堂レリーフ



古葉竹識監督着用
広島ユニホーム